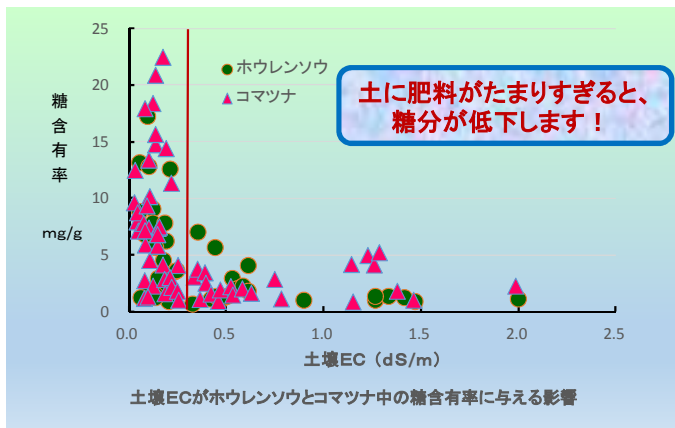
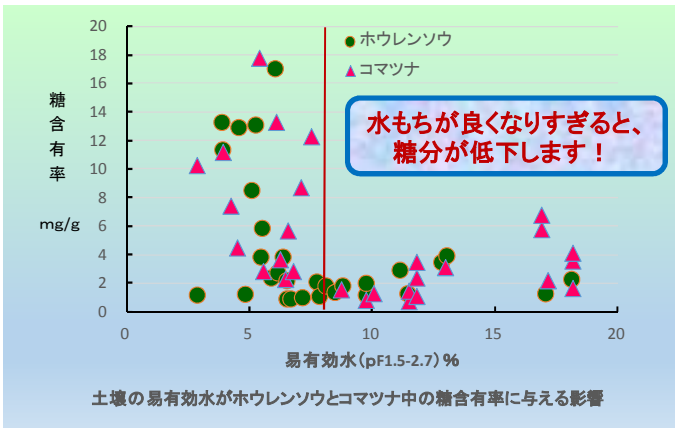


美味しいホウレンソウ、コマツナを生産する 有機農業の土づくり指針

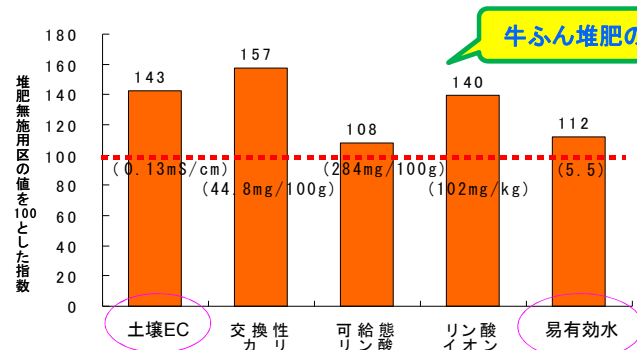
【背景・目的・成果】有機農業技術は、経験的技術から科学的データに基づく汎用化技術へのステップアップが求められています。そこで、高品質な葉物野菜を生産する土壌管理法を明らかにするため、県下の有機農業実践ほ場の土壌理化学性とその収穫物(ホウレンソウ、コマツナ)の品質との関係について実態調査を行いました。その結果、糖含有率の高い美味しいホウレンソウ、コマツナを生産するためには、土壌中の肥料分量と水分を抑えた管理が必要であることが分かりました。



* 土壌EC：土壌の電気伝導度。土壌中の肥料分量の目安。



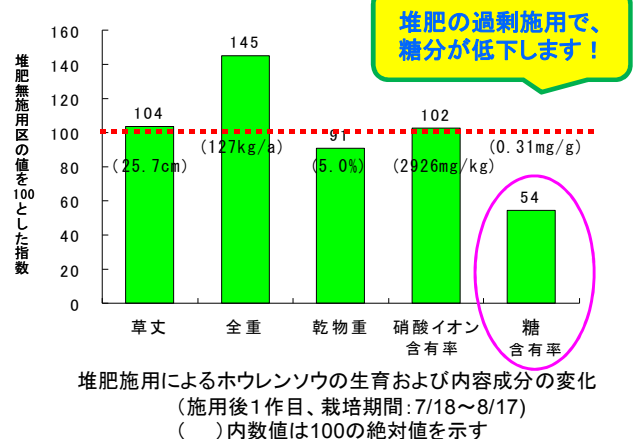
* 易有効水：作物が吸収できる土壌水のうち、作物根がほとんど抵抗なく吸収できるもの(pF1.5~2.7の範囲の水)。



堆肥施用による土壌の化学的・物理的性質の変化 (堆肥5t/10a施用、3作栽培終了後の土壌) ()内数値は100の絶対値を示す



有機農業 土づくり指針



堆肥施用によるホウレンソウの生育および内容成分の変化 (施用後1作目、栽培期間:7/18~8/17) ()内数値は100の絶対値を示す

腐植含量の基準値 従来4~6% → 3~5%へ (あえて低く設定)

高品質葉物野菜生産のために 土壌EC: 0.3 mS/cm 未満 易有効水: 8 ml/100cm² 土壌 未満

- ### 有機葉物野菜生産に適した堆肥施用指針
- 1 年間の堆肥施用量は、水分60%換算の堆肥で
単年施用の場合、上限 5t/10a
連用施用の場合、上限 3t/10a
 - 2 十分に腐熟した堆肥を施用
 - 3 堆肥原料は、動物質(家畜ふん)より植物質の割合を増やす
 - 4 土壌ECの診断値により、施用堆肥の量、質ともに適宜変更

【技術の活用】有機農業の土づくり指針の活用により、有機農産物のブランド化を目指します。